市立三次中央病院

内科専攻医研修プログラム



１．理念

このプログラムは、広島県北部にある備北医療圏の中核病院である市立三次中央病院を基幹病院とし、主に備北医療圏にある医療施設が連携施設・特別連携施設となり構成した医療施設群において、内科研修を行うために作られたものである。救急分野も含めた幅の広い内科疾患に対応できる基礎的臨床力を身につけながら、同時に専門的な医療の研鑽も行うように作られている。真に地域から求められる医師を育むためのプログラムである。

２．使命

精神（こころ）を含めた患者の全身を診なければ真に必要な治療は行えない。当院では患者の全人的医療を行いながら、各専門的な知識や手技を学んでいってもらう。さらには、患者の社会的な側面も含めた全体像を見て、なにが患者にとって必要かまたは重要かという根源的な部分まで考えることができる医師を養成する。

3．特性

① 本プログラムは全国的に見ても有数の高齢化地域である広島県備北医療圏を主な研修の場とするものである。地域医療を実践することで、患者から求められる医師の基礎を築いていただく。

② 基幹施設である市立三次中央病院で 2 年間研修を行うことで、研修手帳（疾患群項目表）に定められた 70 疾患群のうち、通算で 49 疾患群、150 症例以上を経験する。

③ 市立三次中央病院は、広大な医療圏からさまざまな急患を受け入れている。特に夜間や休日は当院まで 1 時間以上かけて来院する患者もいる。専門外なので診ることができません、ということは許されない。当直医としてこれらの疾患の初期診療を行い、さらに必要な場合は専門医を呼び出して共に診療することで救急医療に対して自信を（過信ではない）つけていただく。専門外なので断るのではなく、まず患者を診て判断し必要があれば的確な専門家または最善の施設に相談する、あるいは紹介するという姿勢が自然に身につく。

④ 市立三次中央病院では外来診療も担当していただく。入院で治療した患者をその後、外来でも診ることで患者の経時的・包括的な治療について学ぶことができる。また、コモンディジィーズについても経験できるし、さらに、入院治療は不要だが重要な内科的疾患（糖尿病、慢性心不全、喘息や慢性閉塞性肺疾患、ウイルス性肝炎や脂肪肝、慢性腎臓病、癌の外来化学療法など）について学ぶことができる。

4. 募集専攻医数

① 市立三次中央病院内科専攻医研修プログラムでは 1 学年 5 名を募集します。

② 市立三次中央病院における剖検数は 2024 年度 1 体、2025 年度 1 体でした。

③ 市立三次中央病院には、消化器　肝臓病　循環器　呼吸器　腎臓病　糖尿病　血液の専門医が在籍しています。また、膠原病専門医による外来診療も行っています。

④ 専攻医 3 年終了時に、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた中の少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験が達成可能です。また、これに伴い内科各分野における「研修カリキュラム項目表」に記載される知識・技能技術，および「技術・技能評価手帳」に記載される技能・技術を取得することができます。

2025 年度　基幹病院（市立三次中央病院）における、疾患群別入院患者数

（全症例数 2894 例の主病名から抽出。一部重複があります。一般内科と救急は除いています。）

	入院患者数(人)
消化器	902
循環器	417
内分泌	45
代謝	93
腎臓	89
呼吸器	624
血液	370
神経	35
アレルギー	5
感染症	96
その他	218

基幹病院（市立三次中央病院）の 2025 年度　外来診療実績表（担当医別）

	外来延患者数(人)
内科	40
消化器	11,839
循環器	8,575
呼吸器	7,281
腎臓	3,500
糖尿病・内分泌・代謝	9,800
血液	3,476
リウマチ・膠原病	4,279
緩和ケア	893

上記の表は、担当医で分類したものです。各担当医が他の分野の疾患または他の分野に大きく関連する疾患を診療することもあります。また救急外来患者は含まれていません。

5. プログラムにおけるカンファレンス

カンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した。

6. リサーチマインドの養成

１症例ごとに疾患の背景や原因、治療の妥当性や他の選択肢があったか、再発予防のために何をすべきかなどを熟考し、患者一人一人からしっかりと学んでいただき、必要があれば学会などで症例報告をしていただきます。また、診療を行う中で疑問があれば科学的なデータ検索を行い、さらに必要があれば疑問を解消するべくリサーチを行うことを検討する姿勢も身につけていただきます。

7. 学術計画に関する研修計画

内科系の学術集会に年１回以上出席していただきます。

地域における各種研究会や研修会に年３回以上出席していただきます。

経験症例についての文献検索を行い、年１例以上の症例報告を行います。

臨床的疑問点を抽出して臨床研究を行います。

8. コア・コンピテンシー

内科専門医として高い倫理性と社会性を獲得するために、本研修施設群は下記の①から⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。

① 患者とのコミュニケーション能力

② 患者中心の医療の実践

③ 患者から学ぶ姿勢

④ 自己省察の姿勢

⑤ 医の倫理への配慮

⑥ 医療安全への配慮

⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性

⑧　地域医療保健活動への参画

⑨　他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力

⑩　後輩医師への指導

9. 地域医療に関する研修計画

市立三次中央病院内科専攻医研修プログラムでは、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験できます。また、近隣診療所の支援（代診など）により、地域にある診療所の意義や実際の活動、重要性、病院との連携の実態なども学ぶことができます。

10. 内科専攻医研修

市立三次中央病院において、1 年目 2 年目の 2 年間専門研修を行います。専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望、研修達成度、360 度評価などを基に 3 年目の研修施設を調整・決定します。基本的に 3 年目は連携施設や特別連携施設での研修を行っていただきます。

11. 専攻医の評価時期と方法

①　市立三次中央病院臨床研修センターの役割

市立三次中央病院内科専攻医研修管理委員会の事務局を置きます。

市立三次中央病院内科専攻医研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について、日本内科学会専攻医登録評価システムの研修手帳 WEB 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。

3 ヶ月ごとに研修手帳 WEB 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による記入を促します。また各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

6 ヶ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また各

カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

6ヶ月ごとにプログラムに定められた所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。

年に複数回、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システムに集計され、1ヶ月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って改善を促します。

臨床研修センターは、メディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を年に複数回行います。担当指導医・上級医に加えて、看護師長・看護師・臨床検査技師・放射線技師・臨床工学士・薬剤師・事務員などから評価を受けます。評価表では社会人としての適性、医師としての適性、コミュニケーション能力、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。

日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジットに対応します。

② 専攻医と担当指導医の役割

専攻医一人に一人の担当指導医がプログラム委員会により決定されます。

専攻医はWEBにて日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行って、フィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

担当指導医は、専攻医と十分なコミュニケーションをとり、研修手帳WEB版での専攻医による症例登録の評価や、臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は上級医と面談し、経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を、可能な限り経験できるよう主担当医の割り振りを調整します。

担当指導医は上級医と協議し、知識・技能の評価も行います。

③ 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに、市立三次中央病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認しま

す。

④ 終了判定基準

1）担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容を評価し以下の確認を行います。

＜1＞ 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上を経験したこと。ただし外来症例も 20 例まで含むことができる。

＜2＞29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成評価後の受理

＜3＞ 所定の 2 編の学会発表または論文発表

＜4＞JMECC 受講

＜5＞ プログラムが定める講習会の受講

＜6＞ 日本内科学会専攻医登録システムを用いて、メディカルスタッフによる 360 度評価と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

2）市立三次中央病院内科専攻医研修プログラム委員会は、当該専攻医が上記終了要件を充足していることを確認し、研修期間終了１ヶ月前までに委員会で合議の上、統括責任者が終了判定を行います。

12. 専門研修管理委員会の運営計画

① 内科専門研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置させている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム委員会は、統括責任者、プログラム管理者、事務局代表、内科各分野の研修指導責任者、連携施設担当委員で構成されます。

② 市立三次中央病院内科専攻医研修施設群では、基幹施設、連携施設に内科専門研修委員会を設置します。各施設の研修委員会は、前年度の診療および専攻医の指導実績、指導医数と専攻医数及びそれらの次年度の予定、学術活動の実績と当年度の予定について毎年 4 月に研修管理委員会

に報告します。

13. プログラムとしての指導者研修の計画

指導法の標準化のため、日本内科学会作成の冊子「指導の手引き」を活用します。厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を奨励します。指導者研修の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

当然のことながら労働基準法や医療法を遵守します。

基幹施設である市立三次中央病院では、研修に必要な図書室とインターネット環境、三次市常勤職員としての労務環境、メンタルストレスに適切に対処する部署が整備されています。また女性医師が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。さらに院内に保育所があり利用可能です。

15. プログラムの改善方法

① 日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて無記名式逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、研修委員会、プログラム管理委員会が閲覧し、研修環境の改善に役立てます。

② 市立三次中央病院内科専攻医研修施設群では、日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に必要に応じてプログラムの改良を行います。

16. 専攻医の募集および採用の方法

専攻医の募集および選考については、具体的に決定し次第、当院のホームページに掲載します。

17. 専門研修の休止、中断、プログラム移動

やむをえない事情により他の内科研修プログラムへの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて本プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき当プログラム管理委員会と移動後のプログラム委員会が、継続的研修を認証することにより専攻医の継続的な研修を認めます。

疾病や妊娠・出産に伴う研修の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 4 ヶ月以内であれば研修の延長は必要ないこととします。休職期間が 4 ヶ月を超える場合には、研修期間の延長が必要になります。

18. その他

現在のところ、本研修施設源内で JMECC を開催できる施設はありません。このため JMECC 受講については、広島市立安佐市民病院の協力を得て広島市立安佐市民病院において開催される JMECC に参加させていただく予定です。このための時間的金銭的支援は確実に行われます。

市立三次中央病院内科専攻医研修プログラム　専攻医研修マニュアル

1） 専門研修医の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は　(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専攻医が関わる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）

② 内科系救急医療の専門医

③ 病院での総合内科の専門医

④ 総合内科的視点をもった Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民や国民の信頼を獲得します。

市立三次中央病院内科専攻医研修プログラムでの研修終了後には、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と general なマインドを持ち、広島県内に限定せず、超高齢化社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得しているはずです。それぞれの希望により subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院での研究を開始するなど　さまざまな分野へ進むことが可能です。

2） 研修施設群の各施設名

基 幹 施 設：市立三次中央病院

連 携 施 設：庄原赤十字病院

公立みつぎ総合病院

神石高原町立病院

公立世羅中央病院

JA 吉田総合病院

特別連携施設：安芸太田病院

庄原市立西城市民病院

3） 各施設での研修内容と期間

毎年秋に専攻医の希望、将来像、研修達成度、360 度評価などを基に、翌年の研修施設を調整し決定します。

4） プログラム終了の基準

① 日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて以下のⅰ)～vi)の終了要件を満たすこと。

ⅰ)主担当医として「研修手帳（疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例を 20 症例まで含むことができる）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。修了認定には主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録済みであること。

ⅱ)29 病歴要約の内科専攻医ボードによる査読・形成的評価に受理されていること。

ⅲ)学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あること

ⅳ)JMECC 受講歴が 1 回以上あること

ⅴ)医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講していること。

ⅵ)日本内科学会専攻医登録評価システムを用いてメディカルスタッフによる 360 度評価と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められていること。

② 当該専攻医が上記終了要件を充足していることを　当プログラム管理委員会は確認し、研修期間終了約 1 ヶ月前にプログラム管理委員会で合議の上統括責任者が終了判定を行います。

＜注意＞「研修プログラム項目表」の知識、技術、技能習得は必要不可欠なものであり、習得するまでの最短期間は 3 年間とするが、習得が不十分な場合には習得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります。

5） 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

ⅰ)日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ⅱ)履歴書

ⅲ)市立三次中央病院内科専攻医研修プログラム修了書（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

6） プログラムにおける待遇ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については各研修施設の待遇基準に従います。

市立三次中央病院内科専攻医研修プログラム　指導医マニュアル

1） 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

① 一人の担当指導医（メンター）に専攻医一人がプログラム委員会により決定されます

② 担当指導医は専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システムにその内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認します。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

③ 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、その都度評価・承認をおこないます。

④ 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションをとり、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty 上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるように主担当医の割り振りを調整します。

⑤ 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。

⑥ 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年終了までに 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理されるように病歴要約について確認し形成的な指導を行います。

2） 専門研修の期間

① 担当指導医は Subspecialty 上級医と十分なコミュニケーションをとり、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。

② 研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリー作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし担当指導医が承認を行います

③ 主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該登録症例の削除、修正などを指導します。

3）日本内科学会専攻医登録評価システムの利用方法

① 専攻医による症例登録がされ、担当指導医が合格とした際に承認します。

② 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。

③ 専攻医が作成し担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。

④ 専門研修施設群とは別に日本内科学会病歴要約評価ボードによるピア・レビューをうけ、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。

⑤ 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。

⑥ 担当指導医は日本内科学会専攻医登録システムを用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているか否かを判断します。

4）逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修医委員会およびプログラム委員会が閲覧します。集計結果に基づき、本研修プログラムや指導医あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

5）指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時に日本内科学会専攻医登録システムを用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による評価、メディカルスタッフによる 360 度評価を行い、専攻医に対して形成的に適切

な対応を試みます。状況によっては担当指導医の変更や在籍する研修プログラムの異動勧告などを行います。

6）FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録システムを用います。

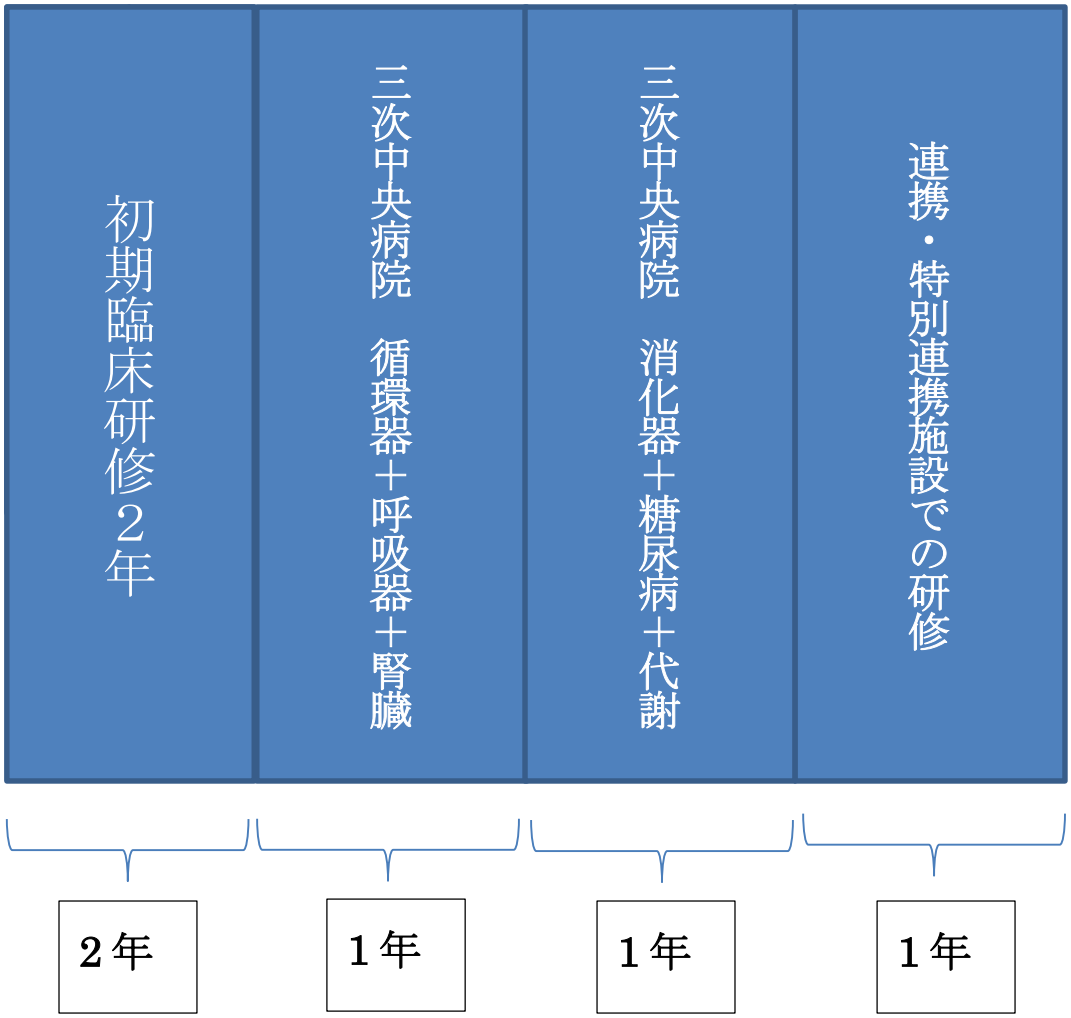
7）日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導医の手引き」を熟読し、形成的に指導します。

8）研修施設群内でなんらかの問題が生じ施設群内で解決困難な場合

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

市立三次中央病院内科専攻医研修プログラムにおける研修モデル



1年目研修　週間予定モデル

	月	火	水	木	金
朝	循環器 カンファ	循環器 カンファ	循環器 カンファ	循環器 カンファ	循環器 カンファ
午前	初診外来	救急外来	外来	病棟	心エコー
午後	検査処置	救急外来	検査処置	検査処置	検査処置
夕		心エコー カンファ	病棟 カンファ		

検査処置：心臓カテーテル検査・治療、永久ペースメーカー移植術、心臓CT、気管支鏡、肺癌化学療法、透析シャント形成術などともに、病棟患者の診療を行います。

2年目研修　週間予定モデル

	月	火	水	木	金
朝					
午前	救急外来	内視鏡	外来	腹部 エコー	初診外来
午後	救急外来	検査処置	検査処置	検査処置	検査処置
夕		消化器 カンファ			

検査処置：消化管内視鏡的治療手技、その他の消化器治療手技（胆道ドレナージなど)、化学療法、院内全病棟の血糖管理などともに、受け持ち病棟患者の診療を行います。

3年目研修は連携施設または特別連携施設

市立三次中央病院内科専攻医研修施設群の概要

	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	市立三次中央病院	328	不定	6	10	8	1
連携施設	庄原赤十字病院	248	127	8	6	6	1
連携施設	公立みつぎ総合病院	217	79	5	2	3	0
連携施設	神石高原町立病院	60	60	2	0	1	0
連携施設	公立世羅中央病院	155	60	3	1	1	0
連携施設	JA 吉田総合病院	237	80	6	3	3	0
特別連携施設	安芸太田病院	95	不定	1	0	0	0
特別連携施設	庄原市立西城市民病院	54	区別なし	1	2	4	0
研修施設合計		1648	541		24	21	3

各研修施設での内科 13 領域研修の可能性

病　院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
市立三次中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○
庄原赤十字病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	△	△	△	○
公立みつぎ総合病院	○	△	○	△	△	△	○	△	△	×	△	△	△
神石高原町立病院	○	○	△	×	×	△	○	×	△	△	△	○	○
公立世羅中央病院	○	○	△	△	○	×	○	△	△	○	△	○	○
JA 吉田総合病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
安芸太田病院	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	○
庄原市立西城市民病院	○	△	○	○	△	△	○	△	○	○	△	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階(○，△，×)に評価しました。

〈 ○：研修できる，△：時に経験できる，×：ほとんど経験できない 〉

専門研修基幹施設の概要

施設名	市立三次中央病院
認定基準 ［整備基準 24］ １）専攻医の環境	・初期臨床研修基幹病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・個人個人にパソコンと iPad を貸与し自由に使用できます。iPad からは電子カルテの閲覧も可能です。 ・三次市正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（院内衛生委員会）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 ［整備基準 24］ 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 10名在籍しています(2026年度）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し（2025年度実績　医療安全2回(72ｺﾏ)、感染対策 2回(71ｺﾏ)実施）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催するとともに参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを年に一回開催し、専攻医には開催に関してなんらかの関与を義務付け受講も義務付けるとともに、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し（2025 年度実績 緩和ケア講習会 1回など ）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕と金銭的補助を与えます。
認定基準 ［整備基準 24］ 3）診療経験の環境	カリキュラムで示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器内科、循環器内科、内分泌内科、代謝内科、腎臓内科、呼吸器内科、アレルギー内科、感染症内科および内科救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 ［整備基準 24］ 4）学術活動の環境	・日本内科学会講演会または同地方会に年間 1 題以上の学会発表をしています（2025 年実績　5 題）

指導責任者	田中幸一 市立三次中央病院は広島県北地域の基幹病院です。県北の広範囲から救急患者が集まります。多くの症例は当院で対処可能であり、多様な疾患群の研修ができます。一部は広島市内などの病院に搬送しますがその際にも初期対応、初期治療を行って搬送する場合がほとんどですので初期診療についての研修は可能です。さらに各分野の疾患について、最先端とは言わないまでも、かなり深く専門的な治療を経験し学ぶことができます。また地域の特性から 病院において common disease を診療する機会が多いことも特徴でしょう。 当院で研修すれば、専門性を深めながら内科医としての総合的な基礎診療力を身につけていくことができます。様々な疾患に対して立ち向かって行く力がつきますし、専門性でも決して遅れをとることはありません。専門性を持ちながら、多種多様な疾患にもある程度まで対応できるという、現在求められている医師像に近づけるのではないかと考えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医９名、日本内科学会総合内科専門医８名、日本消化器病学会専門医４名、日本肝臓学会専門医１名、日本消化器内視鏡学会専門医４名、日本呼吸器学会専門医１名、日本呼吸器内視鏡学会専門医１名、日本循環器学会専門医４名、日本高血圧学会指導医１名、日本超音波医学会専門医２名、日本腎臓学会専門医１名、日本透析学会専門医１名、日本がん治療認定医機構がん治療認定医３名、糖尿病学会専門医１名、膵臓学会指導医２名、胆道学会指導医２名
外来・入院患者数	外来患者(内科)222名(1日平均)、入院患者(内科)110名(1日平均) 2025年度実績
経験できる疾患群	他科とも連携することにより, 消化器領域 9疾患群 循環器領域 10疾患群 内分泌領域 2疾患群 代謝領域 5疾患群 腎臓領域 7疾患群 呼吸器領域 8疾患群 血液領域 2疾患群 神経領域 7疾患群 アレルギー領域 2疾患群 感染症 4疾患群 救急領域 4疾患群 ＋ 総合内科 3疾患群 合計 65疾患群について、主治医となることができます。
経験できる技能・技術	上記疾患群に関連する技術・技能を習得することができます。
経験できる地域医療	当院のある広島県北地域は全国的に見ても高齢化の進んだ地域であり、一人暮らしの高齢者世帯や高齢者のみで暮らす世帯が多数あります。そのような方々に対して、診療所などと連携し支援することにより必要な医療サービスを提供できるように努めていますので、地域医療に関しても十分な経験ができます。

学会認定施設	・新専門医制度内科専門研修施設（基幹施設） ・日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 ・日本臨床細胞学会施設 ・日本栄養治療学会・NST 稼働施設 ・日本透析医学会専門医制度教育関連施設（医療法人あかね会土谷総合病院） ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・呼吸器内科領域専門研修連携施設 ・日本高血圧学会専門医制度研修施設Ⅰ ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本腎臓学会認定教育施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ ・日本緩和医療学会認定研修施設 ・日本胆道学会認定指導医制度指導施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設（特別連携施設）

連携施設の概要

1. 庄原赤十字病院

施設名	庄原赤十字病院
認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院です。（協力型） ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本赤十字社の正規職員または嘱託職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する委員会（衛生委員会）があります。 ・日本赤十字社ハラスメント防止規程が制定されており、相談員を任命しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が6名在籍しています（下記）。 ・臨床研修委員会を設置しており、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績　医療倫理1回、医療安全 3 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣ を開催（2025年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。開催が困難な場合には、基幹施設で行うＣＰＣ、もしくは日本内科学会が企画するＣＰＣの受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で1演題以上の学会発表をしています。（2025年度実績 4 演題） ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025年度実績 4 回）しており、臨床研究等に係る審査を行っています。（2025年度実績8件） ・治験審査委員会を設置しています。 ・専攻医が国内の学会へ参加、発表をする機会があります。
指導責任者	鎌田耕治 【内科専攻医へのメッセージ】 庄原赤十字病院は、地域唯一の総合病院としてかかりつけ医から2次救急医療機関として、幅広く症例を経験することができます。市立三次中央病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として、内科専門医の育成を行います。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会指導医 3 名、日本消化器病学会消化器病専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医2名、日本肝臓学会指導医1名、日本肝臓学会肝臓専門医2名 日本腎臓学会指導医 1 名、日本腎臓学会専門医 1 名、日本胆道学会指導医 1 名 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 2 名 日本消化器内視鏡学会指導医 2 名、日本消化器学会消化器内視鏡専門医 3 名 日本消化管学会胃腸科専門医 1 名
外来・入院 患者数	内科外来患者2,346名（1ヶ月延数）　内科入院患者3,156名（1ヶ月延数）
経験できる疾患群	血液内科等、症例の少ないものを除いて研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域連携、無医地区への巡回診療や過疎地の診療所での診療なども経験できます。 また、併設する訪問看護ステーションと協力して在宅医療を経験することができます。
学会認定施設 （内科系のみ）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本栄養治療学会NST稼働施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本腎臓学会研修施設

2.　公立みつぎ総合病院

施設名	公立みつぎ総合病院
認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度研修指定病院（基幹型、協力型）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・公立みつぎ総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理部担当職員）があります。 ・ハラスメントに関する相談、防止対策は尾道市病院事業局で行っています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 2 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し（2025 年度実績：医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し（2024 年度実績 1 回、2025 年度実績 1 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し（2024 年度実績 10 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、呼吸器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績　地方会 1 演題）を予定しています。
指導責任者	渡辺　章文 【内科専攻医へのメッセージ】 公立みつぎ総合病院は尾道市北部にあり、一般病床 145（一般病棟 84 床、地域包括ケア病棟 55 床、緩和ケア病棟 6 床）、療養病床 72 床（回復期リハビリ病棟 72 床）の合計 217 床を有し、地域の保健・医療・介護・福祉を担っています。市立三次中央病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本内科学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本循環器学会専門医 1 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 1 名、日本消化器病学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者（内科）1,691 名（1 ヶ月平均）　入院患者（内科）54.5 名（1 日平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 3 領域、12 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会特別連携施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 泉温療法士認定教育施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働時節 日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼働施設

3. 神石高原町立病院

施設名	神石高原町立病院
認定基準 ［整備基準 24］ １）専攻医の環境	・初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、無料官舎、更衣室、女性休憩室、当直室が整備され ています。 ・町内の保育所、認定こども園、病後児保育室を利用の基本料及び支給対象経費を全額助成します。
認定基準 ［整備基準 24］ 2）専門研修プログラムの環境	・基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全講習会（年２回）・感染対策講習会（年２回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である市立三次中央病院で行うＣＰＣ参加を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 ［整備基準 24］ 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 領域のうち、総合内科Ⅰ・Ⅱ、および救急の分野で定常的に専門研修が可能です。
認定基準 ［整備基準 24］ 4）学術活動の環境	・基幹施設と連携し日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	原田　亘 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は広島県東部福山・府中二次医療圏の北部中山間地に位置する、地域密着型の 60 床の病院です。 初期救急から慢性期医療さらに在宅医療まで幅広い守備範囲で医療を実施しています。 へき地医療拠点病院として無医地区への巡回診療を行い、また通院困難者等への訪問医療や訪問看護を行っています。 園医や学校医として小児・児童の健診や予防接種を行っています。 地域特性として高齢者医療が主体となりますが、病診、病病、病介連携を密にし、全人的で切れ目のない地域包括ケアを行っています。 当院での研修は内科専攻医としての経験を積むだけでなく、地域医療や社会医療制度などについて考えを深める良い機会になるものと考えます。
指導医数（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医１名 日本消化器病学会消化器専門医１名 日本肝臓学会肝臓専門医１名 日本老年医学会老年病専門医２名

外来・入院患者数	外来患者　2,027 名（1 ヶ月平均）　入院患者　1,237 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳にある内科領域 13 領域のうち、ファーストコンタクトでは全領域となりますが、主に総合内科Ⅰ・Ⅱ、および救急の分野の症例を経験できます。特に複数の疾患を併せ持つ高齢者患者比率が高く、全身を総合的に診るのみならず、家族背景、社会的背景まで考慮した総合的な医療の実践が可能です。
経験できる技能・技術	技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。
経験できる地域医療	当院は医師、看護師、介護士、リハビリ療法士、薬剤師、栄養師、ＭＳＷによる多職種連携を実践しています。チーム医療における医師の役割を研修します。 さらには、急性期病院との連携、かかりつけ医との連携、ケアマネージャーとの連携など地域医療介護連携を重視しています。ケースにより病院退院時には退院前カンファレンスを開催してケアマネージャーや在宅医療との顔の見える連携を実施しています。
学会認定施設	日本老年医学会認定施設

4. 公立世羅中央病院

施設名	公立世羅中央病院
認定基準 [整備基準 24] 1）専攻医の環境	・協力型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・世羅中央病院企業団非常勤医師として、労務環境が補償されています。 ・メンタルストレスに対処する部署(総務課担当)があります。 ・病院内に院内保育園があり、夜間も利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 1 名在籍しています。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的に開催(医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域のうち総合内科、消化器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 [整備基準 24] 4）学術活動の環境	
指導責任者	片岡　雅明
指導医数　　(常勤医)	呼吸器・内視鏡学会指導医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 5,831 名（1 ヶ月平均）　入院患者 139.1 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域を幅広く経験することができます。
経験できる技能・技術	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本アレルギー学会準教育施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設

５．JA 吉田総合病院

施設名	広島県厚生農業協同組合連合会　吉田総合病院
認定基準 ［整備基準 24］ １）専攻医の環境	・初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・吉田総合病院の非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）及び外部相談窓口があります。 ・職員への暴言・暴力対応窓口として院内に職員（警察ＯＢ）を配置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 ［整備基準 24］ 2）専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である市立三次中央病院で行うＣＰＣ、もしくは日本内科学会が企画するＣＰＣの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会）は基幹病院および安佐市医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。また安芸高田市医師会が主催する学術講演会も定期的に開催されていますので専攻医へ周知します。
認定基準 ［整備基準 24］ 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、神経、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。安芸高田市および近隣市町の内科全般の救急医療を担うとともに、慢性期まで幅広く総合的な診療を行っています。県北の中山間へき地医療の一端も担っており、当院から市立川根診療所等へ医師を派遣しています。内視鏡検査は年間 5,213 件の実績があり、在職中の先生方は技術習得と経験を得ることができる環境となっています。
認定基準 ［整備基準 24］ 4）学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。 ･臨床研究に必要な図書室（電子書籍を各自端末にて web 閲覧可能）などを整備しています。

指導責任者	宮田　康史 【内科専攻医へのメッセージ】 JA 広島厚生連吉田総合病院は広島医療圏の安芸高田市にあり、昭和 18 年に開設され地域の拠点病院として診療活動を行っています。また医療・保健・福祉を担う地域完結型病院として地域の皆様が安心して暮らしていける体制を整えています。現在、地域医療機関からの紹介は年間 2,400 件近くに上り、病診連携体制が構築されています。 医療療養病床としては、①急性期後の慢性期・長期療養患者診療、②慢性期患者の在宅医療（自宅・施設）復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰、④在宅患者（自院の在宅患者、および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰、に力を注いでいます。 在宅医療を担う医師、看護師らの支援拠点病院として県から指定を受け、地域医療を守るべく取り組んでいます。また当院は近隣地域住民の休日夜間医療を補完するため、高田地区休日夜間救急診療所を開設し、365 日毎日、夜間救急診療を担っています。 病棟では、医師を含め各職種が協力してチーム医療を行い、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます。
指導医数 （常勤医）	（指導医）日本内科学会 1 名、日本腎臓学会 1 名、日本透析医学会 1 名、日本専門医機構 1 名、日本消化器内視鏡学会 1 名、日本消化器病学会 1 名 （専門医）日本肝臓学会 1 名、日本消化器病学会 3 名、日本消化器内視鏡学会 3 名、日本内科学会 3 名、日本腎臓学会 1 名、日本透析医学会 1 名 （認定医）日本内科学会 3 名
外来・入院患者数	総外来患者 111,896 名（年間実数）　総入院患者 57,682 名（年間実数）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域（血液・神経・膠原病領域以外）、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技能・技術	安芸高田市および近隣市町の内科全般の救急医療を担うとともに、慢性期まで幅広く総合的に診療しております。内視鏡システムを整備し、胃・大腸等年間 5,428 件以上の検査・治療を実施しています。
経験できる地域医療	安芸高田市（人口約 2.6 万人）唯一の総合医療を提供する医療機関であり、医療圏は北広島町や三次市三和地区、広島市安佐北区白木地区など広範囲（人口約 6 万人）にわたっています。 病床は、一般 191 床、療養 46 床を有しております。 県北の中山間へき地医療の一端も担っており、当院から市立川根診療所に週 2 日（月・水）の医師派遣と、特別養護老人ホーム三篠園には月 2 日の精神神経科医師を派遣しています。 市立川根診療所においては年間約 660 名の患者の診察にあたり、より実践的にへき地医療現場での診療を行っています。
学会認定施設	日本消化器病学会　認定施設 日本消化器内視鏡学会　指導施設

特別連携施設の概要

１．安芸太田病院

施設名	安芸太田病院
認定基準 ［整備基準 24］ １）専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように医局エリアに更衣室、当直室（ユニット バス付）および女性用トイレが整備されています。
認定基準 ［整備基準 24］ 2）専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 ［整備基準 24］ 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 5 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
認定基準 ［整備基準 24］ 4）学術活動の環境	日本内科学会全国学会あるいは同規模学会に年間で計 2 回の参加（研修）機会を設けます。（地域学会は別途参加可能です。）
指導責任者	結城　常譜 【内科専攻医へのメッセージ】 安芸太田病院は広島県の北西部にあり、一般病棟 43 床、療養病棟 52 床の合計 95 床を有し、地域の保健・医療・福祉を担っています。 「地域の皆様が安心して生活でき、心の支えとなる保健・医療・福祉を提供します」を基本理念として、外来、入院診療に加え、訪問診療も担当し在宅医療の実際についても研修可能です。
指導医数　（常勤医）	日本内科学会認定指導医 0 名（内科常勤医師 4 名）
外来・入院患者数	外来患者数　49,374 人　入院患者数　39,409 人（令和 3 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技能・技術	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設	（内科関係分のみ） 日本アレルギー学会教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本呼吸器学会関連施設

２．庄原市立西城市民病院

施設名	庄原市立西城市民病院
認定基準 ［整備基準 24］ １）専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・西城市民病院常勤医師として労務環境を整備している。 ・メンタルストレスに関する担当者（地域連携室及び産業医）を配置しています。
認定基準 ［整備基準 24］ 2）専門研修プログラムの環境	・指導医２名が在籍しています。 ・基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全委員会を年２回開催し、感染対策委員会を年４回開催しており、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 ［整備基準 24］ 3）診療経験の環境	・カリュキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・救急分野においては、2 次救急医療が主になります。 ・県北のへき地医療の一端を担っており、移動診療車での診療を行っています。
認定基準 ［整備基準 24］ 4）学術活動の環境	・日本内科学会、地域医療学会への年２回の参加（研修）機会を設けます。
指導責任者	・郷力　和明
指導医数　（常勤医）	・地域包括医療・ケア認定医　２名 ・総合診療指導医　１名
外来・入院患者数	・外来患者　2,883 人（1 ケ月平均）　　入院患者　1,334 人（1 ケ月平均延数）
経験できる疾患群	・きわめてまれな疾患を除いて研修手帳にある 13 領域を幅広く経験することができます。
経験できる技能・技術	・技術・技能手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療	・急性期医療だけでなく、超高齢化社会に応じた多職種との連携や、地域包括医療・ケアを研修できます。
学会認定施設	・地域医療・ケア認定施設

市立三次中央病院内科専攻医研修プログラム管理委員会

市立三次中央病院

田中　幸一（プログラム統括責任者、循環器分野責任者）

濱田　敏秀（プログラム委員会委員長、消化器分野責任者）

豊福　守（プログラム責任者、救急分野責任者）

粟屋　禎一（事務局代表、呼吸器分野責任者）

吾郷　里華（腎臓分野責任者）

岡田　晃（糖尿病・代謝分野責任者）

連携施設担当委員

鎌田　耕治（庄原赤十字病院）

渡辺　章文（公立みつぎ総合病院）

原田　亘　　（神石高原町立病院）

片岡　雅明　（公立世羅中央病院）

宮田　康史　（JA 吉田総合病院）

特別連携施設担当委員

結城　常譜（安芸太田病院）

郷力　和明（庄原市立西城市民病院）